

自 己 評 価 表 （ 最 終 ）

愛媛県立今治北高等学校（大三島分校）
学校番号（16）

グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）
自己肯定感を高め、豊かな人生を歩むために必要となる「生きる力」を育むため、以下の具体的な力・心・態度を育成します。 （１）自ら考え行動できる力 （２）学校や地域を愛する心 （３）多様性を認め合う寛容な態度 （４）礼儀正しい態度と感謝の心	以下の項目に重点を置いて教育課程の編成・実施を行い、学校生活の中で主体的かつ意欲的に学ぶ生徒を育成します。 （１）基礎的・基本的な知識や技能の習得 （２）地域資源を活用し地域に根ざした、体験的な教育活動の実践 （３）総合的な探究の時間や学校行事、生徒会活動を通してどの生徒にも活躍の場を与える教育活動の実践 （４）自身の在り方や生き方を考えながら、社会人として成長していくためのキャリア教育の実践

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上	A	「グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると思いますか。」という教職員対象のアンケートに対して、20%が「十分に成長している」、80%が「成長している」という肯定的な評価をした。	今後も高評価が得られるよう継続した教育活動を行いたい。
	わかり易い授業の工夫	年間3回以上の研究授業を行ったり、授業公開・相互参観期間を2週間以上設けたりすることで教員相互の指導力の向上を図るとともに、ICTを積極的に活用した教育活動を実践する。また、生徒授業アンケートを実施し、満足度80%以上を目指す。 A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：65%以上 E：65%未満	A	研究授業や授業参観を予定通り行い、生徒の実情に応じた授業を実施することと教員の指導力を向上させることに努めた結果、生徒の評価は良好であった。また、ICTを活用した授業も各教科で実践されており、全体的に効果的な教育活動が展開された。	研究授業や授業参観を計画的に実施し、引き続き教員の指導力向上と、生徒が主体的かつ意欲的に取り組める授業づくりに努める。また、学校生活の様子を発信する機会を増やすことで、保護者に本校の教育活動を周知する。
	指導内容の定着	年間5日以上学習支援日を設けたり、個別に適切な課題を与えたりするなど生徒の実態に応じた学習指導や学習支援を行い、生徒一人一人の進路実現のために、必要な学力を身に付けさせる。	A	考査期間中の学習支援日を8回設定し、生徒の自主的な学習と進路意識の高揚につなげることができた。また、授業内容の補習や大学受験の指導、英語検定取得に向けた添削指導など、個別指導も充実させた。	次年度も引き続き学習支援日を効果的に設定・実施し、生徒の学習習慣の確立に努める。また、進路実現に必要な学力の向上を図るため、積極的に学習支援を行い、必要に応じて個別指導を行う。
	家庭学習の充実	効果的な学習課題を研究して家庭学習の定着を図り、生徒の学習活動全般を適切に評価する。また、考査期間中の学習時間調査や放課後学習会の実施を通して、考査期間中の平均学習時間4時間以上を確保し、学年末での成績不振者0人を目指す。	B	考査期間中の平均学習時間は3時間50分であり、昨年から30分減った。ただし、2学期末考査期間中にインフルエンザの流行があったことを差し引くと、昨年とほぼ同じだと考えられる。I型の生徒の学習時間の確保が課題である。	普段の授業をより充実させることで生徒の学習意欲を喚起し、引き続き平均学習時間4時間の確保に努める。また、進路課とも連携し、進路意識の向上から主体的な学習態度の醸成へとつながられるようにする。
	適切な学校行事	学校行事の精選を図るとともに、本校の伝統である特色ある学校行事を充実させる。	A	運動会や文化祭をはじめ、生徒主体で充実した学校行事を運営できた。文化祭、合同球技大会等、伯方分校との交流を行ったが、日程面・費用面の課題があった。	生徒の安全を確保しつつ、生徒の成長につながるような工夫を凝らした学校行事の実施に努める。
	活力ある特別活動	部活動に入り意欲的に活動することを推奨して、すべての部の活動を充実させ、各部の実力や目標に応じた各種大会への出場を目指す。	B	県総体や県高文祭・各種大会への出場を目指して各部それぞれ活動できた。島デザイン部がプレゼンコンテストで県最優秀賞を受賞するなど成果を上げた。	部活動改革の流れを汲みつつ、今年度に引き続いて全ての部活動の充実に努める。
	基本的生活習慣の確立	少人数ならではの家庭的で温かい人間関係の中で、挨拶や節度ある生活態度に関するきめ細かな指導を実践し、皆勤率の向上を図る。 A：35%以上 B：30%以上 C：25%以上 D：20%以上 E：20%未満	D	生徒と教員との人間関係は概ね良好であり、生徒一人一人の実情に応じた温かい指導を展開している。皆勤率は20%で、微減傾向が続いていることから改善に向けた取組が課題である。	生徒一人一人の発達段階や実情に応じたきめの細やかな温かい指導を引き続き行うとともに、家庭とも協力しながら基本的生活習慣の確立に努め、皆勤率を向上させる。

※評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	就職指導の充実	就職内定率 100%を目標に、資格取得や学力定着のための個別指導、就職指導のより一層の充実を図る。また、社会人としての自覚を持たせるため、内定後の指導も充実させる。	A	就職希望者 10 名は、希望の事業所・職種 への就職を決定した。商業科や家庭科にお ける資格取得指導をはじめ、全ての教育活 動を通して、社会人としての自覚を持たせ ることができた。	各学年とも卒業後を見据えた計画的 な進路指導を行うとともに、3 年間の指 導を通して適切な職業観や勤労観をも つ生徒の育成に努める。
	職場体験活動の充実	1 年生を対象としたインターンシップでは、社会に積極的に貢献できる人物の育成を目指すとともに、社会の一員としての自覚と責任を身に付けさせ、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	A	島内の各事業所の協力を得て、3 日間のインターンシップを実施することができた。各事業所からの生徒の評価は昨年度よりも高く、充実したものとなった。また、長期休暇を利用して企業見学に積極的に参加した。	引き続き島内の各事業所の協力を得 ながら計画どおりインターンシップを 実施し、生徒が働くことの意義や社会の 一員としての自覚を認識することがで きるよう努める。
	個に応じた進学指導	一人一人を大切にした個別指導の充実を図り、進路実現に向けて主体的に取り組む生徒を育成し、希望する学校への進学達成率 100%を目指す。	A	個別指導の徹底により、生徒は希望する学校への進路実現を果たした。内訳は、国公立大学 4 名、私立大学 1 名、国公立短期大学 1 名、専門学校 9 名である。	個別指導の徹底により、大学進学希望 者のより一層の学力の向上を図り、国公 立大学一般入試に対応できる実践力を 身に付けさせるよう努める。
家庭・地域との連携	P T A 活動の活性化	学校活性化に向けて保護者の協力を得るため、P T A 評議員会等を計画的に開催するとともに、その内容を充実させ、情報交換を密にするよう努める。	A	P T A 総会や評議員会を計画的に実施 し、役員や評議員、会員との積極的な情報 交換を行うことで、良好な協力体制を確立することができた。	総会や評議員会を計画的に開催するとともに、P T A 会員と教職員との情報 交換の場を積極的に設け、教育活動のより一層の活性化に努める。
	教育目標・経営方針の周知	分校通信の定期的な発行や今治市が発行する広報誌などへの記事掲載を通じて情報発信に努めるとともに、一日当たりのホームページ閲覧数 180 カウント以上を目指す。 A：180 以上 B：160 以上 C：140 以上 D：120 以上 E：100 未満	A	分校通信の定期的な発行と市広報誌の 活用、ホームページでの教育活動の紹介等 を通して、情報発信を行うことができた。ホームページ閲覧数は 1 日平均 230 カウントであった。	効果的な情報発信の方法について研究を行う。部活動の大会結果や学校行事はもちろん、普段の授業の様子等も発信することで、保護者等に本校の教育活動について周知するよう努める。また、全国募集についても福山市や尾道市を中心に発信していく。
	学校評価の充実	教育活動全般において P D C A サイクルを確実に実施するとともに、教育の質の向上に努め、学校評価アンケートにおける生徒・保護者の評価向上につなげる。	B	生徒からは昨年と同等の良い評価を得 ることができたが、保護者の評価はやや低かった。教育活動に関する情報発信等を通じて、保護者の評価向上につなげたい。	保護者の回答数の少なさが一因と考えられるため、より多くの保護者から回答を得られるような工夫が必要である。
組織運営	分校運営の強化	本校の伝統・特性を生かした魅力ある学校運営に努め、振興対策協議会との連携をより強化する。また、各種メディアを有効に活用し、全国募集を含め島内外の生徒へ学校の魅力をアピールし、入学生 31 名以上を確保する。 A：31 名以上 B：29 名以上 C：27 名以上 D：25 名以上 E：25 名未満	E	島内歩行大会やマリンスポーツなど、本校の特色を活かした魅力ある教育活動を実施することができた。また、オープンスクールや高校説明会の実施、合同説明会への参加、今治市広報への記事掲載等の生徒募集活動を行うことで、特色入試では県外からの 2 名を含む 14 名の、一般入試では 14 名の志願者（キャンパス未定）を確保した。	伯方キャンパスの教職員とも協力し、しまなみ高校として魅力ある教育活動を実施するとともに、広報活動を行うことで、中学生とその保護者に学校の良さを効果的に周知し、入学生を確保できるよう努めたい。
	業務改善を通じた働きやすい職場づくり	<u>校務分掌の整理・統合により、業務分担の適正化と明確化に努めるとともに、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。</u>	B	来年度以降の校務分掌の整理・統合を行った。新校開設準備委員会や各分校の職員会議で、一定の理解が得られた。	作成した校務分掌が機能するように、調整を行いながら運用し、業務を統合することで教職員の負担軽減を図りたい。

※評価は 5 段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。